# 翔（しょう）

平成二十八年

68

【岸田文雄季刊誌】

Fumio Kishida DETAILED REPORT MAGAZINE
［自由民主党広島県第一選挙区支部］

Contents

○広島Yearだった今年一年
○写真で見る今年の岸田文雄の動き
○数字で見る岸田外交

ロシアのプーチン大統領と

## ■数字で見る岸田外交

岸田文雄外務大臣は、来年１月５日で大平正芳を抜き戦後歴代２位の在任期間となります。また１位は総理兼任期間の長い吉田茂であり、**単独の外務大臣としては戦後１位**となりますし、大平正芳も２回の期間における通算記録となりのすので、**連続しての在任期間としてはすでに戦後１位**となっております。

外務大臣とは外国訪問が多い役職であり、また国会においても外務委員会をはじめ沖縄及び北方問題特別委員会や拉致問題特別委員会と担当委員会が多い上に、昨年から今年にかけては**安保法制特別委員会とＴＰＰ特別委員会といった最重要委員会の全ての時間に出席をして答弁を行わなければならなかった**ため、本当に体力勝負のところがありました。

しかしこれらの全ての職責をこなし、未だ外務大臣として高い評価を得ている岸田文雄は、これからもますます国の内外において注目を集めていくことになるでしょう。

### ◆戦後歴代外務大臣在任期間順位（平成２８年１２月９日現在）

| | | |
|---|---|---|
| 第１位 | 吉田　茂（総理兼任含む） | １９０９日 |
| 第２位 | 大平　正芳 | １４７２日 |
| 第３位 | 岸田　文雄 | １４４５日 |
| 第４位 | 安倍　晋太郎 | １３３４日 |
| 第５位 | 河野　洋平 | １１３１日 |

※現在のＧ７外相の中でも最長。

### ◆外国訪問記録

| | |
|---|---|
| 外遊回数 | ５１回 |
| 訪問国数 | ４７カ国・地域 |
| のべ | ８１カ国・地域 |
| 出張日数 | ２３３日 |
| 飛行距離 | 963,219Km |

### ◆外国要人との会談

外国要人との会談数：７２０回(内、外相会談は１１３か国との間でのべ３０４回)
外国要人との電話会談数：１４４回(内、外相電話会談は３２か国との間でのべ１２６回)
ケリー米国務長官との会談：計４８回（ほぼ月１回のペース）

### ◆国際会議出席回数

１０４回
（TICADVI、アジア太平洋経済協力（APEC）閣僚会議など）

季刊「翔」六十八号　発行　平成二十八年十二月二十一日
自由民主党広島県第一選挙区支部「翔」編集室
〒730-0013 広島市中区八丁堀六ー三　和光八丁堀ビル九階

**岸田文雄後援会事務所**

●国会事務所
〒100-8982 東京都千代田区永田町2-2-1
衆議院第一議員会館1222号室
TEL (03) 3508-7279 (直通)　FAX (03) 3591-3118

●広島事務所
〒730-0013 広島市中区八丁堀6-3
和光八丁堀ビル９階
TEL (082) 228-2411 (代表)　FAX (082) 223-7161

●岸田文雄ホームページ
http://www.kishida.gr.jp/
ケータイ用サイトQRコード

### 岸田文雄プロフィール

昭和32年生まれ。早稲田大学法学部卒業後、㈱日本長期信用銀行等を経て、平成５年の衆議院議員総選挙において初当選。以後８期連続当選中。

自民党青年局長・商工部会長・経理局長、建設政務次官・文部科学副大臣、衆議院厚生労働委員長などを歴任後、平成19年の第一次安倍改造内閣において内閣府特命担当大臣（沖縄担当など）で初入閣。初代消費者行政推進担当大臣として消費者庁新設の土台を作る。

平成23～24年にかけて野党自民党において国会対策委員長として指揮をとり、与党に対して厳しい国会追及を行い、解散に追い込む。

また24年には保守本流の政策集団である「宏池会」の会長に就任する。

平成24年に発足した第二次安倍内閣において外務大臣として入閣。現在の第三次安倍第二次改造内閣まで一貫して再任され、戦後外務大臣の在任期間歴代３位、平成の外相としては最長となっている。

**岸田文雄フェイスブック**
www.facebook.com/kishdafumio
日々の活動写真を中心に更新しています

# 広島YEARだった今年一年

## 外務大臣 岸田文雄

外務大臣に就任してあと僅かで四年が経ちます。平成二十四年十二月二十六日が就任日ですから、随分前のことのように思いますし、また同時に時が経つのは早いものだと感じているところです。

来年の一月五日でついに大平正芳外務大臣の在任期間を抜いて、戦後歴代二位の在任期間となります。一位は総理大臣兼任期間が長い吉田茂総理であり、また間が途切れることなく連続しての在任期間となると私が戦後一位になります。

今年はまさに「広島Year」と呼ぶに相応しい一年でした。四月に開催されたG7広島外相会合、五月のオバマ米国大統領の広島訪問、そして広島東洋カープの25年ぶりのセ・リーグ優勝など、一年を通して日本中、世界中から注目される一年でした。

私自身、四月のG7広島外相会合では議長として会合をリードし、アメリカ・イギリス・フランス・ドイツ・イタリア・カナダ、そしてEU外相の計8人で広島平和記念公園において献花を行い、原爆資料館を視察し、そして原爆ドームをたもとまで歩いて間近で見てもらいました。この映像は世界に大きなインパクトを与えることができました。

G7外相会合が広島で開催された意義、そして平和公園献花や原爆資料館視察などの意義は、大変大きなものがあったと思っています。核軍縮・不拡散の観点からすれば、G7とは、アメリカ・イギリス・フランスの核兵器国と、日本・ドイツ・イタリア・カナダの非核兵器国のどちらもが参加している枠組みと言えます。核軍縮は核兵器国と非核兵器国とが協力しながら、核兵器の非人道性に対する正確な認識と、厳しい安全保障に対する冷静な認識との、この二つの認識の元に、現実的かつ実践的な取り組みを進めていく必要があります。そしてそれこそが核兵器のない世界を現実するために最も有効な取り組みであると考えています。そうした立場の中においてG7広島外相会合におけるこれらの取り組みは、核兵器国と非核兵器国が共に同じ方向を歩む中において大きな意味のあるものだったと思います。

そしてそれが五月のオバマ米国大統領の、現職の米国大統領として初めての広島訪問、そして平和記念公園での献花と原爆資料館の視察に繋がりました。言うまでもなく米国は核大国です。その米国大統領が広島を訪問し、平和記念公園と原爆ドーム、そして原爆資料館を見てもらうことで被爆の実相に触れてもらうというのは、大変意義深く、歴史的な出来事だったと言えます。私自身、オバマ大統領に原爆ドームの説明を致しましたが、オバマ大統領の関心は非常に高いものがありました。そのお気持ちは原爆資料館での「私たちは戦争の苦しみを経験しました。共に、平和を広め核兵器のない世界を追求する勇気を持ちましょう」という記帳に全て込められているのではないでしょうか。

「核兵器のない世界を目指す」この目標を多くの国が共有しています。そして私は四年以上外務大臣を務めてきた中で、核兵器国と非核兵器国の協力なくして結果を出すことはできないと痛感する場面に多々直面してきました。この現実の中で具体的に結果を出すために、今後とも信念や立場を貫いて取り組んで参りたいと思います。

二十五年ぶりに広島東洋カープがセ・リーグ優勝を果たしました。私事ですが、昭和五十年の広島東洋カープがセ・リーグ初優勝を決めた後楽園球場の試合、当時高校生だった私はその場で観戦していました。物心ついた時からカープファン、カープが良い時も悪い時も一ファンとして常に応援してきました。それだけに非常に感慨深く、この二十五年ぶりのリーグ優勝は、私たち広島の人間に勇気と感動をもたらしました。広島東洋カープは広島の誇りです。ぜひ来年こそは日本一奪還をしてほしいと願っています。

この他にも今年は多くの出来事がありました。北朝鮮の核開発問題や、世界的なテロの問題、イギリスのEU脱退問題や、またアメリカではトランプ氏が次期大統領に就任する見込みとなりました。いま世界は大きく変化しようとしています。しかし安倍総理がいち早くトランプ氏と会い信頼構築に努めましたし、ロシアとは先日私がロシアを訪問し、プーチン大統領の訪日も実現し、より一層の日露関係の前進に繋がりました。これからも地球儀を俯瞰する外交をより推進し、国際社会への責任を果たし、日本の発信力と影響力の強化に努めて参りたいと思います。

日本外交には様々な課題がありますが、大事なのは国民の皆様の御理解を得ながら応援して頂き、外交を進めていくことです。外務大臣としてこの点を心からお願いしたいと存じます。

原爆慰霊碑の前でケリー米国国務長官と

# ■写真で見る今年一年の岸田文雄の動き

日英２プラス２

衆議院外務委員会

バチカン訪問

宏池会と語る会

ミャンマーのアウンサンスーチー国家顧問

参議院選挙地方応援において

カープの試合で始球式を

G７外相と原爆ドーム視察

G７外相と平和記念公園で献花

G７外相と厳島神社に

G７外相会合

外務大臣に４度目の留任

日・イラン投資協定署名式

オバマ大統領に原爆ドームの説明を

オバマ大統領が折った折り鶴

２５年ぶりのリーグ優勝

日本シリーズに応援へ

ケネディ米国大使とお好み焼き屋で

宏池会研修会で沖縄に

ロシアのラブロフ外相